

柳井地域における防災への取り組みと課題

柳井地域事業推進委員会 ○浦辻彰江 熊谷たまき 河村香代子 加藤友美

背景・目的

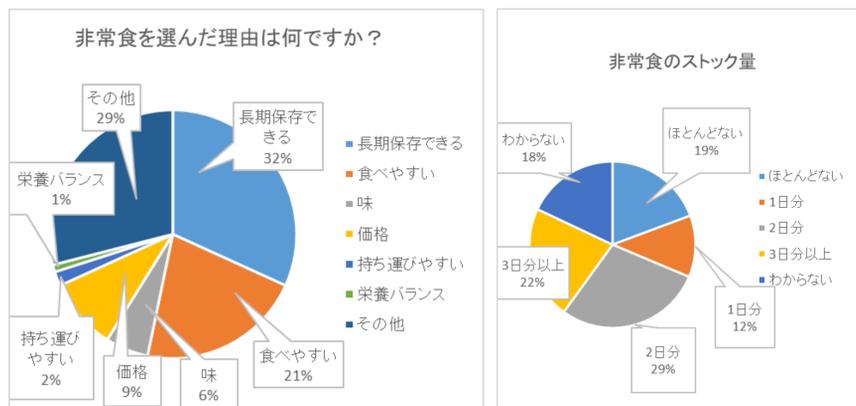
近年、自然災害は頻発し、その規模も拡大している。柳井地域事業推進委員会では、「食」を中心とした防災対策を進めており、防災意識と実践力の習得目的に、講演会や調理実習を段階的に実施してきた。本研究では、これらの取り組みの成果と課題を明らかにし、今後の活動の方向性を検討する。

方法

令和5年度に『大切なひとを守るための防災～災害時の食を考える～』と題した講演会を開催し、防災意識の啓発を行った。令和6年度は、『災害時に役立つパックスッキング』の調理実習を実施し、災害時の簡便な調理法を紹介した。令和7年度は防災士会と共催し、パックスッキングに加え、避難対策を専門家の視点から学んだ。また、令和6・7年度には、柳井祭りでもパックスッキングの実演・試食・防災情報提供を行い、参加者にアンケート調査を実施した。解析はIBM SPSS statistics Ver.29.0.2.0を用い、 χ^2 検定で有意水準5%未満とした。

アンケート結果

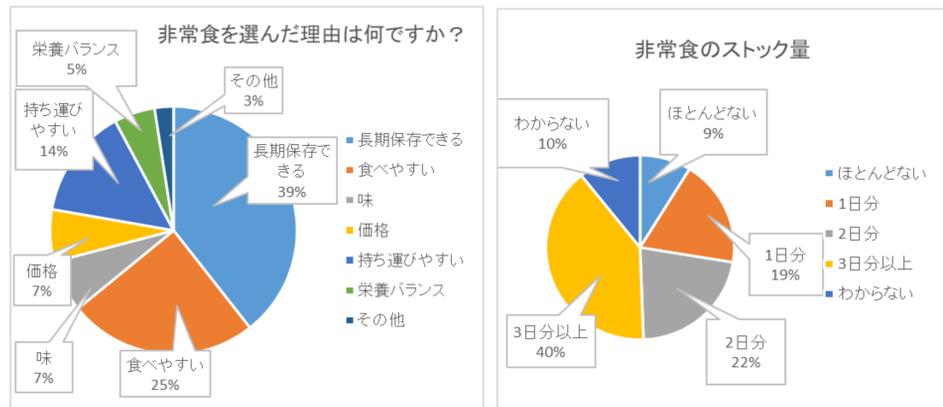
令和6年度結果



第1回事業*パックスッキング



令和7年度結果



第2回事業*柳井祭り



結果および考察

アンケート結果では、非常食の備蓄量に顕著な変化が見られた。昨年は『ほとんどない』と『3日以上』に差がなかったが、今年度は、『2日以上』が『ほとんどない』の2倍以上、『3日以上』が約5倍程度となった。選定理由には『長期保存ができる(賞味期限が長い)』『食べやすい』に加え、今年度『持ち運びやすい』が新たに挙がり、避難を想定した意識の高まりが示唆された。さらに防災士会との共催により、防災知識の習得がさらに進んだ。一方、課題として各事業への参加者及び柳井祭りの栄養士会ブースへの参加者の非常食の準備状況は、パックスッキングの経験がない人はある人に比べ、非常食を用意している・用意を検討中の人が少ない傾向にあった。また年齢を中央値で2群分けした場合、50歳以下群は60歳以上群に比べて非常食を用意している・用意を検討中の人有意に少なかった($p=0.046<0.05$)。このことから50歳以下のイベントへの参加促進によりパックスッキングを経験してもらい、防災への関心を高め、さらに非常食の備えに繋げることが必要不可欠と考える。

結語

パックスッキングの普及は重要であり、防災士会との連携により、災害時の食支援対策や避難体制を強化する必要がある。事業後、食生活改善推進員によるレシピ活用の報告もあり、地域への波及効果が期待される。今後は、①若年層が参加しやすいイベント企画(SNS発信や親子向け防災クッキング)、②各地域の祭りやショッピングセンター等での防災教育の普及啓発、③パックスッキングレシピを山口県栄養士会で公開するなどを進め、さらに今後④防災士会・行政との協働による避難所での食支援体制づくりまで進めていきたい。そしてこれらを通じ、柳井地域のみならず山口県における防災力の向上と食の安全確保に寄与していきたい。